

# 語り部と巡るツアー

被災地から

被災地へ

東日本大震災

東日本大震災の教訓と被災地の現状を伝えようと、被災者らが語り部となって被災地を巡るツアーが地道に続けられている。震災の情報だけでなく、地域の観光スポット訪問を組み入れるなど、参加者を増やす工夫も行われている。

岩手県陸前高田市の陸前高田観光ガイド部会が開催する「未来へ語り継ぐ」と題したツアーでは、語り部が参加者の車に乗り込み、当時の体験を語りながら旧気仙中校舎などの震災遺構を案内する。高台から奇跡の一本松を見学し、かさ上げが進む中心市街地など復興の状況も説明する。

コースには、地元の古刹の普門寺や広田湾を一望する箱根山展望台などの観光名所を

組み合わせることができるほか、今年度から避難体験もメニューに加えた。震災後に整備された避難用の階段などを使い30分ほどかけて高台への避難を体験する。

津波で妹を亡くしたガイドの実吉義正さん(75)は「悲劇を繰り返さないためにも、体験を伝える語り部活動を続けることは大切だと思う。防災への意識を高めてもらいたい」と願う。

宮城県南三陸町の「南三陸

ホテル観洋」は、被災した従業員らがガイドを務める「震災を風化させないための語り部バス」を運行している。骨組みだけが残る町の旧防災対策庁舎や、津波から逃れた人々を救った4階建ての結婚式場「高野会館」などを巡る。昨年、宿泊者以外も参加できるようにした。

参加者はスタートした2012年から延べ30万人を超え、昨年、日本観光振興協会などが主催する「ジャパン・ツーリズム・アワード」大賞を受賞した。周辺への誘客など、交流人口拡大に貢献したことも評価された。同ホテル従業員の芳賀光男さん(55)は「現場を見て初めて分かることがある。今後も広く参加を呼びかけ続けたい」と話す。

福島県相馬市のNPO法人「野馬土」は、東京電力福島第一原発に近い沿岸部を回る「福島第一原発20km圏内ツアー」を行っている。

原発事故による避難指示が解除された南相馬市小高区や浪江町で、津波被害の痕跡や、住民の帰還が進まない福島の現状を見てもらう。参加者の希望があれば、大部分が帰還困難区域となっている双葉町や大熊町を通行可能な国道6号を通り抜け、両町を車内から見学する。

同法人の青田美由紀さん(35)は「福島県の浜通りは少しずつ日常が戻りつつあるが、まだまだ困難な状況にある。多くの方に知ってもらうことで、さらなる復興につなげていきたい」と話している。

## 高台への避難体験 ■ ホテル従業員案内 ■ 原発の近くを見学

### 震災について学べる語り部ツアー

※料金はいずれも税込み  
★は連絡先

#### ■岩手県陸前高田市「未来へ語り継ぐ」



震災遺構巡りコース、復興への変遷コース、観光地巡りコースがあり、組み合わせも可。時間は標準で約2時間。車1台につき1~9人で4000円から  
★陸前高田観光ガイド部会  
0192-54-5011

#### ■岩手県大槌町「語り部ガイド」



被災した旧町庁舎や、ひょっこりひょうたん島のモデルといわれる「蓬莱島」などを回る。時間は60~90分で、1人1000円。最低料金5000円から受け付け ★おらが大槌夢広場  
080-8209-2330

#### ■宮城県「石巻語り部ガイド」



石巻市、東松島市、女川町の被災地を、それぞれの地域の語り部が案内する。申し込みは4人以上で90分1人2160円など  
★防災プロジェクト  
080-1844-9883

#### ■宮城県南三陸町「語り部バス」



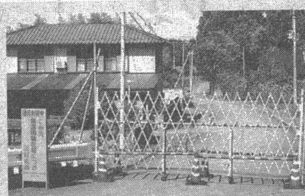
南三陸ホテル観洋を午前8時45分に出発。約1時間かけて町内を回る。中学生以上500円、小学生以下250円。申し込みは前日の午後9時まで ★南三陸ホテル観洋  
0226-46-2442

#### ■福島県「Fスタディツアーinいわき市・双葉郡」



午前10時半にいわき市の温泉旅館・古滝屋を出発。いわき市の津波被災地域や避難指示が解除された富岡町などを回る。午後2時半終了。1人3000円  
★事務局 0246-43-2203

#### ■福島第一原発20km圏内ツアー



震災や原発事故による避難を経験した被災者らが案内する。時間は3~4時間。ガイドブック代500円のほか、5000円以上の寄付をお願いしている  
★NPO法人野馬土 0244-26-8437

「被災地から被災地へ」は月1回掲載します。復興支援に関する情報を読売新聞東京本社地方部内信課へメール(naishin@yomiuri.com)かファクス(03-5200-1836)でお寄せください。